

JR貨物の「夏季手当大幅削減」問題

貨物労組 超低額回答を席上妥結！

まさに「出来レース」そのもの

JR貨物会社は、26日夜、引き延ばしとなっていた夏季手当について基準内賃金の1.1カ月という超低額回答を行った。この回答はこれまで生活給と言ってきた昨年水準を大幅に下回り、自らが策定した事業計画の水準をも下回るもので極めて不当である。これに対して、自称責任組合と言っている貨物労組が席上妥結を行ったという。しかも、回答指定日から12日間も「交渉」「折衝」を行った末で。賃金抑制に反対と言いつつ夏季手当の大幅カットを認める行動はまさに会社と貨物労組の「出来レース」そのものだ。果たして誰の味方なのか問われている。

「賃金カット」について会社との「議論」を認める

国労は、貨物労組と会社が「賃金抑制」について「密室談合で賃下げの条件闘争」を行っている」と指摘した。これに対して貨物労組は「国労は会社の手先だ」と主張・宣伝。国労は、「貨物労組は賃金10%カットとオルグをしている事実が発覚した」と指摘した。しかし、この事実については全く知らぬ顔で、突然「賃金削減計画に断固反対！」と。では、なぜ昨日の交渉速報（6月26日付）で「**夏季手当において犠牲を強いた以上、基本賃金の10%カットは認めることはできない**」と述べているのか？これは賃金10%カットと具体的な数字を初めて明らかにし、国労が指摘した事実を自ら認めたことにほかならない。

貨物に働く社員の皆さんこれ以上の社員犠牲の出来レースは許せません。常にパフォーマンスで最後は席上妥結とは言行不一致もはなはだしい。これでは社員・家族の生活は成り立ちません！国労は、交渉を形骸化し、なしくずしで賃金削減を進める会社とそれを許す策動に反対します。全社員が力をあわせて生活と雇用を守るため共に闘いましょう！

